

## ベヴァリッジ曲線

失業率と欠員率の観察から、失業の少なくとも一部は、労働の超過供給によるものと推測される。

### I. 労働市場の特殊性

#### A. 労働力人口

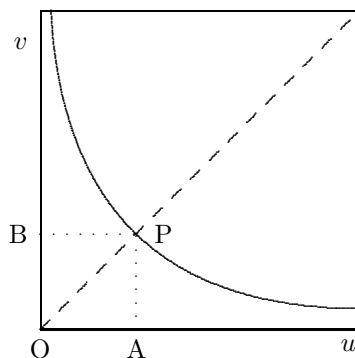
1. 異質性（労働の質，就業機会）
2. 流動性
  - a. 流入と流出 年齢 縁辺労働
  - b. 転職

#### B. 摩擦要因

1. 情報伝播の不完全性
2. 移動の費用
  - a. 空間の移動
  - b. 職種間移動

### II. ベヴァリッジ曲線（UV 曲線）

$E$ ：雇用，  $U$ ：失業，  $V$ ：欠員



$$\text{労働供給： } L = E + U$$

$$\text{労働需要： } N = E + V$$

$$u = \frac{U}{L}, \quad v = \frac{V}{N}$$

$$u = v \longleftrightarrow L = N$$

OA： 完全雇用失業率，摩擦失業

### III. 日本経済の雇用動向

#### A. 労働移動

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
入職率	16.7	15.8	14.2	12.9	13.5	13.8	14.4	13.8	14.0
（内）転職入職率	9.5	8.8	7.9	7.4	7.8	8.0	7.9	8.3	8.4
離職率	15.2	14.6	14.0	13.8	14.3	13.8	15.2	15.1	15.0

$$\text{入(離)職率} = \frac{\text{入(離)職者数}}{\text{1月1日の常用労働者数}} \times 100$$

常用労働者（パートタイムを含む．労働力調査の「常雇」とは異なることに注意．）

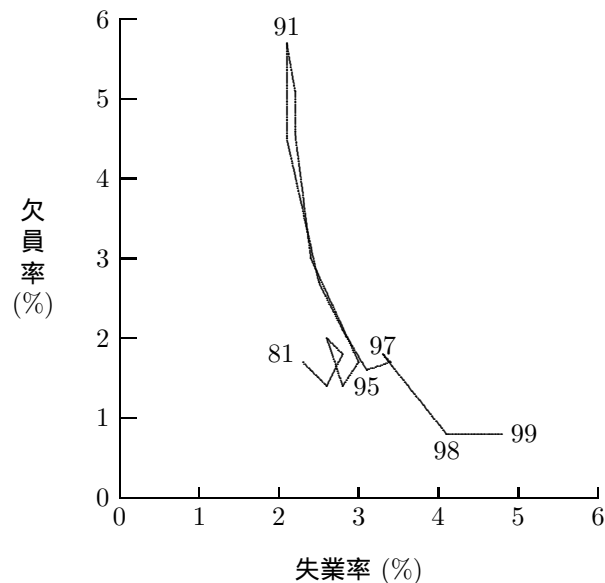
1. 期間を定めずに雇われている者
2. 1 ヶ月を超える期間を定めて雇われている者
3. 1 ヶ月以内の期間を定めて、または日々雇われている者で、前 2 ヶ月の各月にそれぞれ 18 日以上雇われている者

#### B. ベヴァリッジ曲線 1981 - 1999（各年 6 月末）

欠員率  $v$  と雇用動向調査の定義  $v'$  との関係

$$v = \frac{v'}{100 + v'} \times 100$$

日本の完全雇用失業率の推定： 約 2.6 %



#### 参考文献

吉川 洋 (1984) 『マクロ経済学研究』東京：東京大学出版会．

厚生労働省 『数字で見る雇用の動き：雇用動向調査』

総務省 『労働力調査』

内閣府経済社会総合研究所 『経済財政白書 平成 13 年版』